

6-15 富山湾付近の地磁気・重力

Geomagnetic Anomaly and Free-air Gravity Anomaly in the Vicinity of Toyama Bay

海上保安庁水路部

Hydrographic Department, Maritime Safety Agency

海上保安庁水路部は、昭和62年9月～10月に科学技術振興調整費による「中部日本活構造地域の地震テクトニクスに関する研究」の一環として、富山湾付近において海底地形等の調査を実施した。調査は測量船「拓洋」によるもので、シービームによる精密海底地形¹⁾、地磁気及び重力の測量を行なった。測線方向は南北方向に設定し、測線間隔は約1,500mである。今回はこれらより明らかになった富山湾付近の地磁気・重力異常について報告する。

(1) 地磁気異常の概要

第1図は地磁気全磁力異常図で等値線間隔は50nT、正異常は実線、負異常は破線で示した。異常計算に用いた標準磁場はIGRF 1985である。

本区域の地磁気異常は、正の地磁気異常帯が富山トラフを横切って北西～南東方向に広がり、この正異常の高まりの北東にも正異常の高まりがある。正異常帯の西縁付近には富山深海長谷が位置し、この深海長谷の西方の能登半島周辺には短波長で振幅の大きな異常が多数分布している。

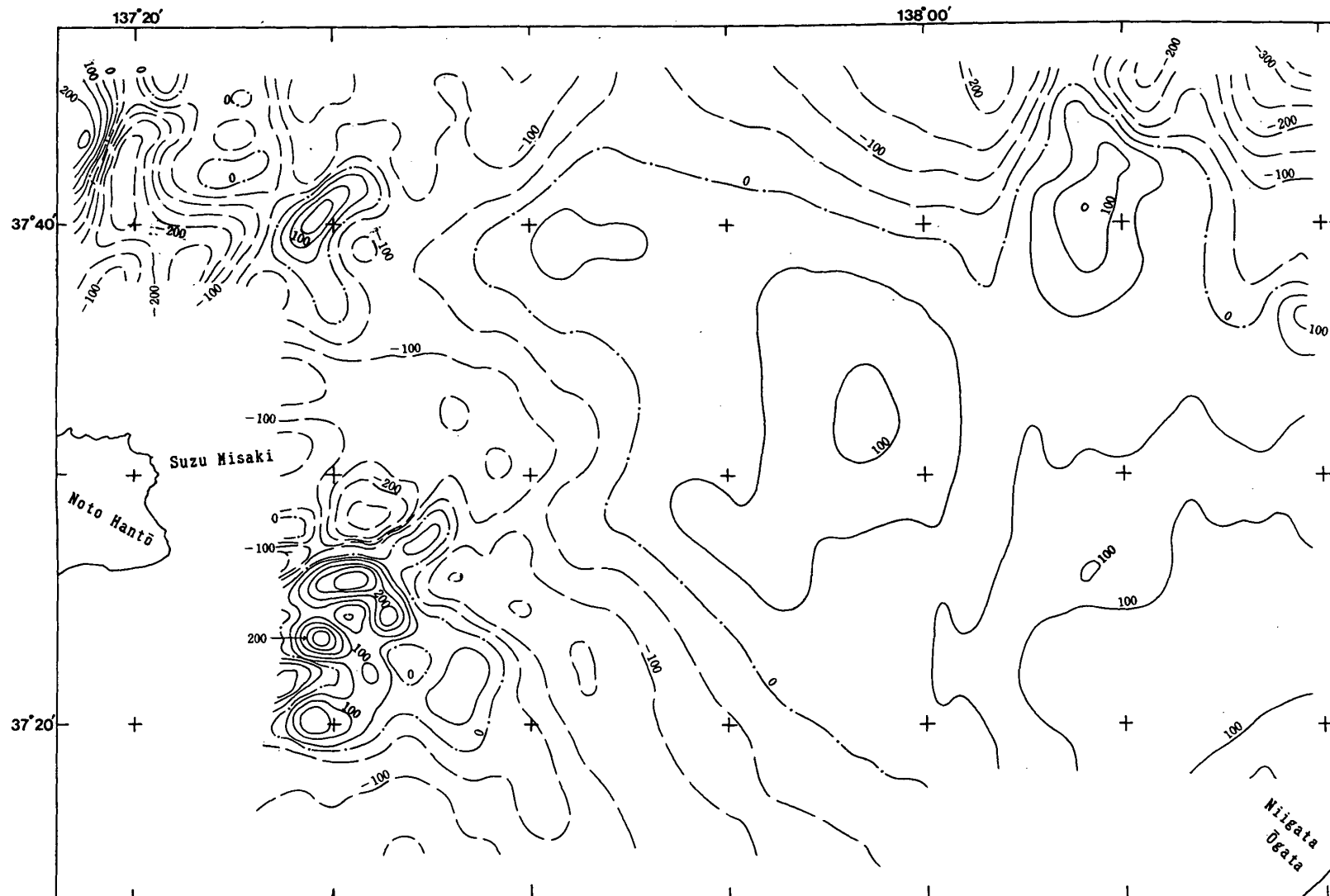
(2) 重力異常の概要

第2図はフリーエア重力異常図で等値線間隔は10mGal、正異常は実線、負異常は破線で示した。

本区域の重力異常図は概ね海底地形図に似ており、能登半島の正異常は海底地形の高まりに対応し富山深海長谷の西側まで張り出している。本図の北東に位置する佐渡島の南西側にも正異常がある。富山トラフは重力の負異常帯で能登半島東方沖に見られる富山深海長谷の大蛇行に伴う重力の異常は図上では見られない。この深海長谷は西方の-20mGal上を大きく蛇行しながら北行している。

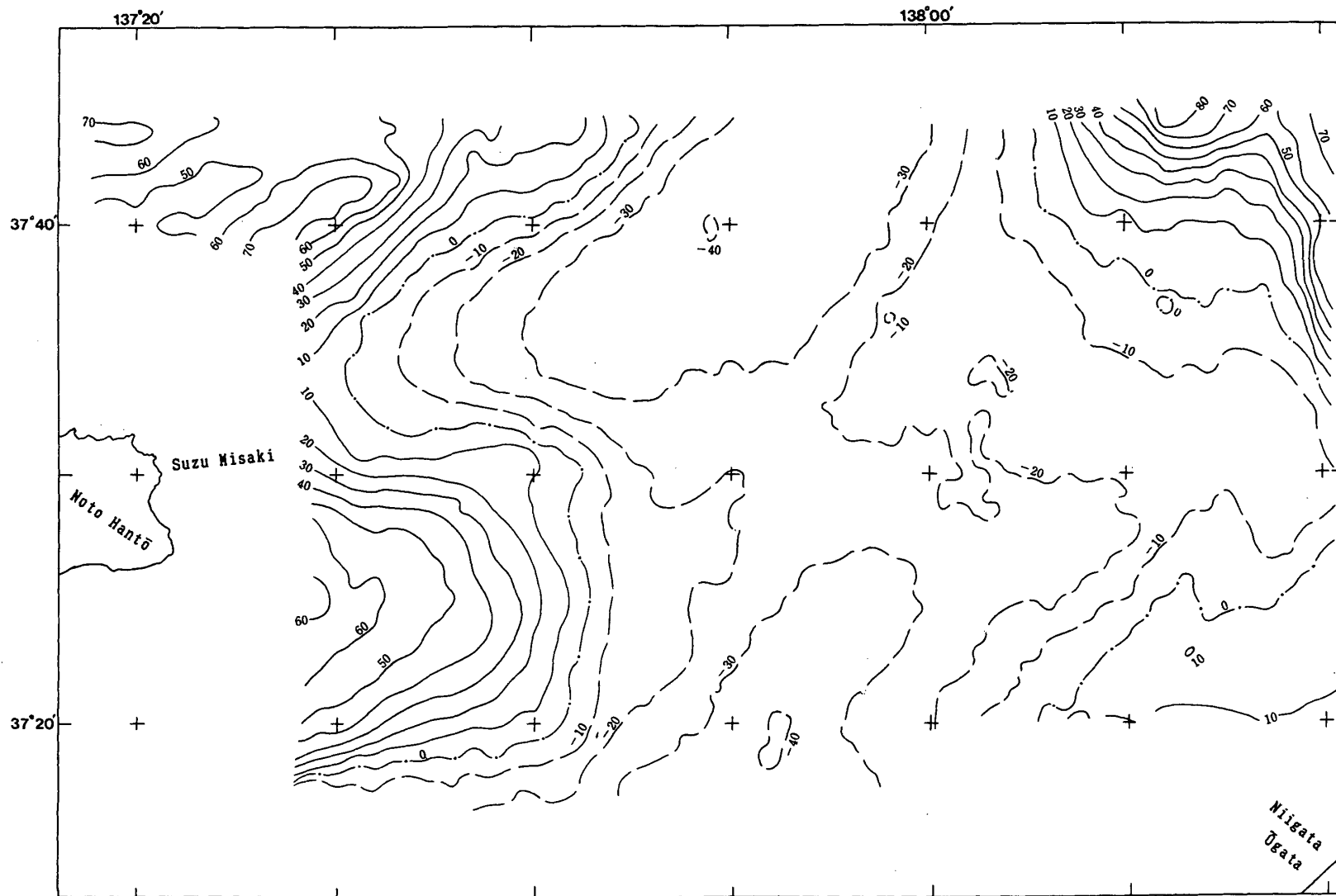
参 考 文 献

- 1) 海上保安庁水路部：富山湾付近の海底地形，連絡会報，41（1989），474-475.



第 1 図 富山湾付近の地磁気全磁力異常図

Fig. 1 Geomagnetic anomaly map in the vicinity of Toyama Bay.



第2図 富山湾付近のフリーエア重力異常図

Fig. 2 Free-air gravity anomaly map in the vicinity of Toyama Bay.